

岩国基地へのMVオスプレイ搬入計画の中止を求める

2012 年 6 月 10 日 日本平和委員会

報道によれば、日米政府は、米海兵隊普天間基地（沖縄県宜野湾市）に配備をねらう新型輸送機MVオスプレイについて、普天間配備前に米海兵隊岩国基地（山口県岩国市）に7月中にも搬入し、試験飛行を行う方向で調整している。

これは、普天間基地へのオスプレイ配備とそれに先立つ那覇軍港への搬入・試験飛行の計画が、宜野湾市民、那覇市民、沖縄県民の猛烈な反対によって見通しが立たない中で、岩国を足場にしてその押しつけの地ならしをしようとするものであり、沖縄県民と岩国市民の意思と安全をふみにじる、許しがたい計画である。

第1にそれは、沖縄の県民ぐるみのオスプレイ配備反対の意思を無視して、何とか配備を押しつけようとする策動の一環である。沖縄県議会、宜野湾市議会が全会一致で配備反対決議をあげているのをはじめ、沖縄の離島を除く9割を超す市町村議会で反対決議が採択されている。世論調査でも、県民の9割が配備に反対している。保守の宜野湾市長も県知事も「断固反対」の意思を示している。「世界一危険な基地に世界一危険な軍用機を配備するとは、沖縄県民の命を何と思っているのか」——これが沖縄県民の声である。アメリカの属国でなく、国民主権の民主主義国家であれば、この県民の総意を無視してオスプレイ配備を強行することが許されないのは、当然の道理である。ところが今回の計画は、これとは逆に、沖縄県民にオスプレイ配備を押しつける邪悪な意図にもとづくものである。沖縄県民を愚弄する岩国配備を断じて許すことはできない。

第2にそれは、このような邪悪なねらいのために岩国市民の安全を脅かし、基地被害の軽減を求める岩国市民の願いを踏みにじり、基地強化を押しつけるものである。

オスプレイはすでに7回墜落している。実戦配備されてからのアフガニスタン、モロッコでの墜落事故の原因は、いまだに明確にされていない。ところが貴職は、正式な事故原因の報告書が出される以前でも、配備を行うとしている。このような姿勢は、日本国民の安全よりもアメリカの軍事的要求を優先する属国的姿勢と言わなければならない。

岩国市民の願いは、空母艦載機移転に反対する住民投票の結果に示されているように、基地機能・基地被害拡大反対である。岩国基地へのオスプレイの配備がこの願いを踏みにじり、市民の命と安全を脅かすものであることは明白である。

こうした点で岩国基地へのオスプレイの先行搬入を許すわけにはいかない。

我々は、この計画の中止を求めるとともに、オスプレイの普天間基地への配備計画の撤回、普天間基地の即時・無条件閉鎖・撤去を、強く求めるものである。